

## 週日の説教

金 大烈 神父 2010年3月2日(火)

### 《人間らしく・・・》

今日の福音(マタイ 23・1 12)の話に入ります。

30年以上も、海水浴場でおぼれた人を救う人命救助の仕事をしていた人が、退職をしました。そこで、友達が彼のところに来て「今まで本当によく頑張った。ご苦労様。」と言いながら、ワインを飲んで祝いました。その時友達が、「ところで、30年間に何人くらいの命を救ったの?」と聞きました。すると彼は、少し考え込んでから「二人くらいかな。」と答えました。友達は、「えっ。30年間でたった二人だけ。そんなに少ないのか。」と驚きました。彼は、「命を救った人は数えられないくらいたくさんいるけれど、感謝の気持ちであいさつに来てくれたのは二人だけだった、ということだよ。」と答えました。

私たちは、人間らしい生き方をしなければなりません。私たちは、誰の目で見ても、獣ではなくて人間に見えます。しかし、それだけでは十分ではありません。本当に人間らしい人間になるためのポイントが今日の福音には書かれています。

「人柄」という言葉がありますね。あの人は人柄がよい、悪い、いろいろな使い方をします。では、その人の人柄がよいか悪いかの基準は何でしょうか。実際には、人柄がよいかどうかの基準が書いてあるテキストはありません。それを判断する方法は、その場その場で表れるその人の反応や態度、振る舞いなどです。それらを見て周りの人々は、「恰好よい人」とか「接したくない人」などと判断するのです。ですから、人とかがかわっている間中、その人の人柄は自然と表れます。

さあ、皆様はどうでしょうか。「あの人は人柄が素晴らしい。」というほめ言葉を何回くらい受けたでしょうか。もしこの質問に自信がなければ、反省してください。人柄というものは薫です。どんな時でも、どんな状況でも、自然に表れるものです。隠そうとしても隠せないし、無理にきれいに見せようとしてもすぐに分かってしまうものです。

皆様、今日の福音でもファリサイ派の人々と律法学者たちはイエス様に批判されています。その人々は素晴らしい言葉をたくさん話しています。しかし、誰が見ても『人間的ではない』と判断されています。結局、イエス様がおっしゃっているのは、「人間ならば誰もが感じられる美しさを見せるように頑張りなさい。」ということではないでしょうか。いくら知識で満たされていても、いろいろな富で満たされていても、中身が腐ってしまえば絶対に薫は出ません。これは条件とは関係ないと思います。私たちは、いつ神様に呼ばれるのか分かりません。呼ばれる前にできるだけ、自分の心をきれいに耕そうと頑張らなければなりません。それが実際の信仰の定義ではないかと思います。

「人柄が素晴らしい」と言われる人生を送るように頑張りましょう。

ありがとうございました。